

関西福祉大学
社会福祉学部

2023年度
ソーシャルワーク実習
報告
6組(高田クラス)
児童分野

子どもの自立支援における連携の 在り方について

秋定 希和
岡田大輝
金近 真緒
黒川 諒
田中 奏

福田 真生
福家 寛人
水野 佑風
村島 大斗



SW実習6組
高田クラス
(児童分野)

2023年度SW実習報告

秋定 希和
村島 大斗
金近 真緒
田中 奏
福家 寛人
黒川 諒
岡田 大輝
水野 佑風
福田 真生

子どもの自立支援における
連携の在り方について

Contents

- 事例
CASE STUDY
 - 事例① (児童養護施設)
 - 事例② (児童養護施設)
 - 連携会議 (児童養護施設)
- 実習先の概要
INTRODUCTION
 - 児童養護施設とは？
 - 児童自立支援施設とは？
- 総合考察
DISCUSSION
 - ✓実践する上で大切なことの学び

□実習先の概要


INTRODUCTION

- 児童養護施設とは？
- 児童自立支援施設とは？


児童養護施設とは？

保護者のいない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする。 ※児童福祉法第41条


現在は、「当たり前の生活」を保証するため、**小規模化が推進**されている。



小舎制




中舎制



大舎制

児童自立支援施設とは？

児童自立支援施設は、児童福祉法第44条に基づく児童福祉施設で各都道府県に設置されています。**不良行為をする恐れのある「虞犯傾向」と言われる子どもたちが入所、または通所しながら自立を目指す施設です。18歳までを期限として約1400人の子どもたちが生活しています。**



1日のスケジュール(例)

時刻	児童養護施設	児童自立支援施設
6~9時	平日 起床、身支度、朝食、登校	平日 起床、ランニング、掃除、朝食、身支度、登校
	休日 起床、身支度、朝食、自由時間	休日 起床、ラジオ体操、掃除、朝食、身支度
9~12時	平日 授業	平日 授業
	休日 勉強、自由時間	休日 自由時間
12~15時	平日 授業	平日 授業
	休日 自由時間	休日 自由時間
15~18時	平日 昼食、外遊び	平日 作業
	平日 帰園、宿題、おやつ、外遊び、入浴	平日 ランニング
18~21時	休日 おやつ、外遊び、入浴	休日 外遊び、ランニング
	平日 夕食、自由時間、就寝準備、就寝	平日 入浴、夕食、自由時間、勉強、就寝準備、就寝
	休日 夕食、自由時間、就寝準備、就寝	休日 入浴、夕食、自由時間、就寝準備、就寝

□事例

CASE STUDY

生活場面での連携

- 事例① (児童養護施設)
- 事例② (児童養護施設)
- 連携会議 (児童養護施設)

□児童養護施設の事例①

- ◆ある女兒とテレビを見ていた際、その子から「**たばこを吸っている**」、「**タトゥーを入れている**」と話をされ、「他の人には言わないでね」と**秘密を求められた**。
- ◆実習生から児童に対しての質問
 - ・「どこで吸ってるの？」→「近くの喫煙所と自分の部屋」
 - ・「何吸ってるの？」→「赤のマルボロ」
 - ・「たばこの匂いはどうしているの？」→「香水で誤魔化している」
 - ・「どこにタトゥー入ってるの？」→「二の腕に一か所」

□児童養護施設の事例①

- ◆その時に生じた実習生の気持ちや迷い
 - ・児童が話していることは本当なのだろうか。
 - ・この出来事を他の人に話して本当に大丈夫なのだろうか。
 - ・児童が話すことに対してどう反応したら良いのだろうか。

■ その後の対応

- ◆その後、職員さんにその出来事を報告すると、①その女の子の発言は嘘であること②以前にも同様の事例があったことが分かった。
- ◆職員さんと、その子の行動の背景について話し合った結果…
 - ①不良行為の話をすることによって自分を大きく見せようとしているのではないか。
 - ②秘密を共有することによって、親密な関係を作ろうとしているのではないか。

■ 事例①を通した考察

☆情報共有の大切さ

- ◆情報共有による行動背景の分析
- ◆児童の行動を多面的に捉えることができる
- ◆児童のストレングスへの気づき



□事 例

CASE STUDY

- 事例①（児童養護施設）
- 事例②（児童養護施設）
- 連携会議（児童養護施設）

家庭復帰における連携

■ 児童養護施設の事例②

- ◆母の意向
 - ・将来的に本児を引き取って一緒に暮らすこと。
- ◆入所児童の意向
 - ・きょうだいも含めて、一緒に暮らしたい。
- ◆家庭復帰の難しさについて
 - ・母親の体調が不安定であること
 - ・経済的に安定していないこと
 - ・外出・外泊等の段階を経ていないこと
 - ・母親の居住地が遠方であること

■ 居住地が遠方であること

- ◆親、子どもに家での生活に戻ること（引き取り）に関しては前向きである。
- ◆しかし、住んでいる場所が遠すぎることで、外出・外泊等の必要なステップを踏むことが困難な状況にある。
- ◆母親の状況がわかりずらく、直接的なサポートを児童相談所も施設も行いにくいこと。
- ◆母親は体調が優れず、移り住むことは困難なため、措置変更以外の道は現状無い。

■ 家庭復帰のための支援

- ◆措置変更に向けて児童相談所と施設が対象児童の情報を整理、共有する。
- ◆その上で、児童相談所間で協議してもらい、管轄の移管や措置変更を検討する。
- ◆移管と措置変更が決まり次第、変更先の施設とも情報を共有し、家庭復帰に向けた支援の連続性を保つ。

■ 事例②を通した考察

- ◆家庭復帰に向けて支援をしていく場合、県内の専門機関同士の連携に加え、他の都道府県の専門機関との連携が重要となる場合がある。
- ◆対応する機関が変わる場合は、情報共有を密にし、支援の連続性が途切れないように配慮する必要がある。
- ◆家庭復帰後のアフターケアでは、子育てに関して相談できる機関を紹介するなどし、復帰後の生活が安定するまで支援を続けていくことも重要である。

□事 例

CASE STUDY

- 事例①（児童養護施設）
- 事例②（児童養護施設）
- 連携会議（児童養護施設）

退所後の支援

■ 社会的養護出身者の現状

- ◆児童養護施設では、基本的に18歳になると施設を出て自立しなくてはならない（退所年齢上限撤廃が決まったのは令和4年）。
- ◆そのため社会的養護出身者の中には生きづらさを感じている人が多くいる。
- 進学率の低さ
 - ✓2020年度の大学進学率54.4%に対し社会的養護出身者の進学率は15%程度
 - ✓経済的な問題、身近に模範となる存在がないため進学を思い描けない

社会的養護出身者の現状

- 離職率の高さ
 - ✓ 3年以内の離職率が80%
 - ✓ 年齢制限で施設を出ないといけないため、明確な目標や夢、知識がないままとりあえず就職する
 - ✓ 人間関係構築の難しさ
- 貧困
 - ✓ 低学歴、離職により低賃金、仕送りなどの支えがない
- 家族主義・孤立
 - ✓ 日本社会における家族主義の頑固さ
 - ✓ 連帯保証人、身元保証人、様々な契約

児童養護施設の事例③

- ◆児童、医療、障害、高齢、社会福祉協議会のCSWが集まり、会議を行った。
- ◆CSWは高齢者、障がい者、貧困家庭、単身者、外国人、ホームレスなど地域で困っている広範囲の方への支援を行っている。
- ◆この会議は地域支援を必要としている方へ、地域全体で支援を行っていくことを目的としている。

事例③を通じた考察

- ◆今回参加した会議では、児童養護施設卒園生のホームレスが増加していることから在園中の支援の在り方、対応や連携について話し合った。

児童：自立支援担当者の存在
医療：健康面、衛生面の不安
障害：精神障害、知的障害、発達障害による自立困難への不安
社協：自立支援制度についての説明、アフターケアについて

事例③を通じた考察

施設内だけでは支援が偏ったり
新しい情報が入りづらい



会議に参加し多機関と連携することで・・・
多機関の助言により支援の幅が広がる
地域全体でその児童の存在を把握できる
地域の情報をいち早く知ることができる

□総合考察

DISCUSSION

✓実践する上で大切なことの学び

総合考察-実践する上で大切なことの学び-

- ◆子どもの自立支援において、**本人の意思**は重要である。
- ◆子ども本人の意思を知り、反映するためには**連携**が重要である。
- ◆自立支援における連携では
 - ・職員間で児童の言動を共有・分析し、多面的に捉えること (**情報共有**)
 - ・県内外の機関と情報共有し、連携していくこと (**支援の連続性**)
 - ・1つの機関ではなく、地域の複数の機関で連携していくこと (**多機関連携**)
が大切である。

総合考察-実践する上で大切なことの学び-

- ◆児童本人の意思をくみ取るには、児童の言動の本質に目を向けることが大切である。また、家族の思いを理解することも重要である。
- ◆そのため、職員間での情報共有や関係機関との連携によって複数の視点から児童や家族を理解する必要がある。
- ◆これらのことによって、児童の意思に沿った自立支援が可能になると考えた。

ご協力いただいた実習施設

- 児童養護施設
 - ・神戸少年の町
 - ・天心寮
 - ・南野育成園
 - ・夢野子どもホーム
 - ・讃岐学園
 - ・子供の家
 - ・大阪西本願寺常照園
 - ・アメニティホーム光都学園
- 児童自立支援施設
 - ・神戸市立若葉学園

Thank You For Your Attention



Kansai University of Social Welfare